

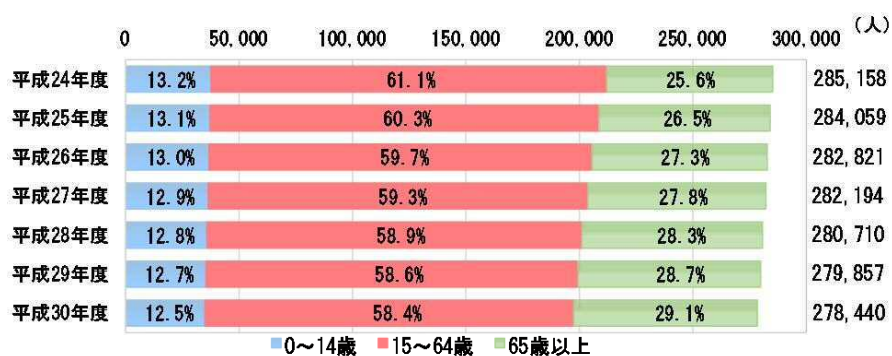
資料編

1. 津市の人口

(1) 人口の概要

津市の総人口は、平成18年1月の誕生以降減少していますが、平成30年度末で278,440人で、三重県の市町では四日市市に次いで多くなっています。

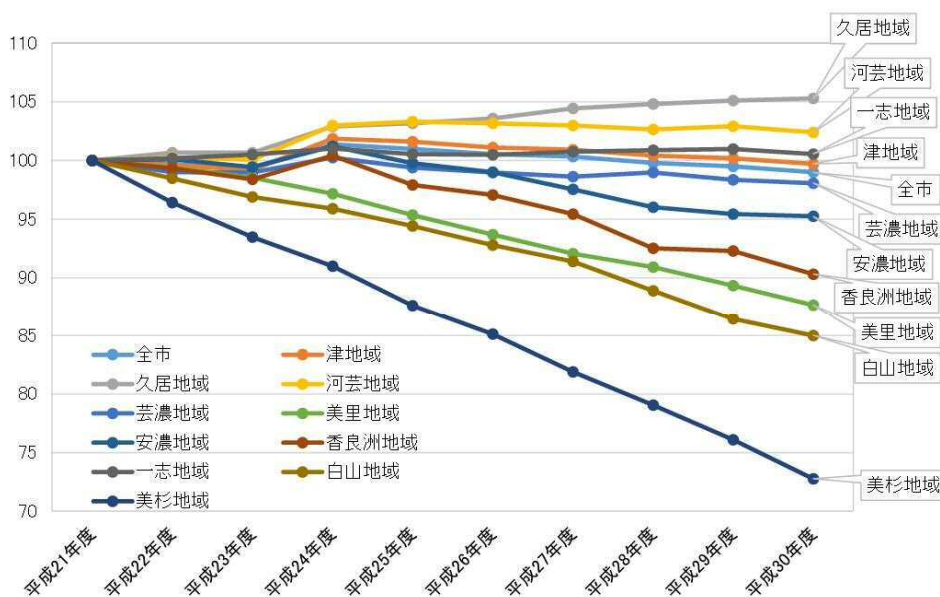
生産年齢人口（15～64歳）、年少人口（15歳未満）共に減少しており、生産年齢人口は、平成24年度には61.1%であったものが、平成30年度には58.4%に減少しています。



※各年度末（3月31日）の人口（外国人を含む）
（出典：住民基本台帳）

図1 津市の年齢3区分別人口の推移

人口の推移を地域別に見ると、平成21年度末の人口を100としたとき、平成30年度末では久居地域の約105が最も高く、河芸地域及び一志地域も100を上回っていますが、その他の地域は100を下回っており、美杉地域は75を下回っています。

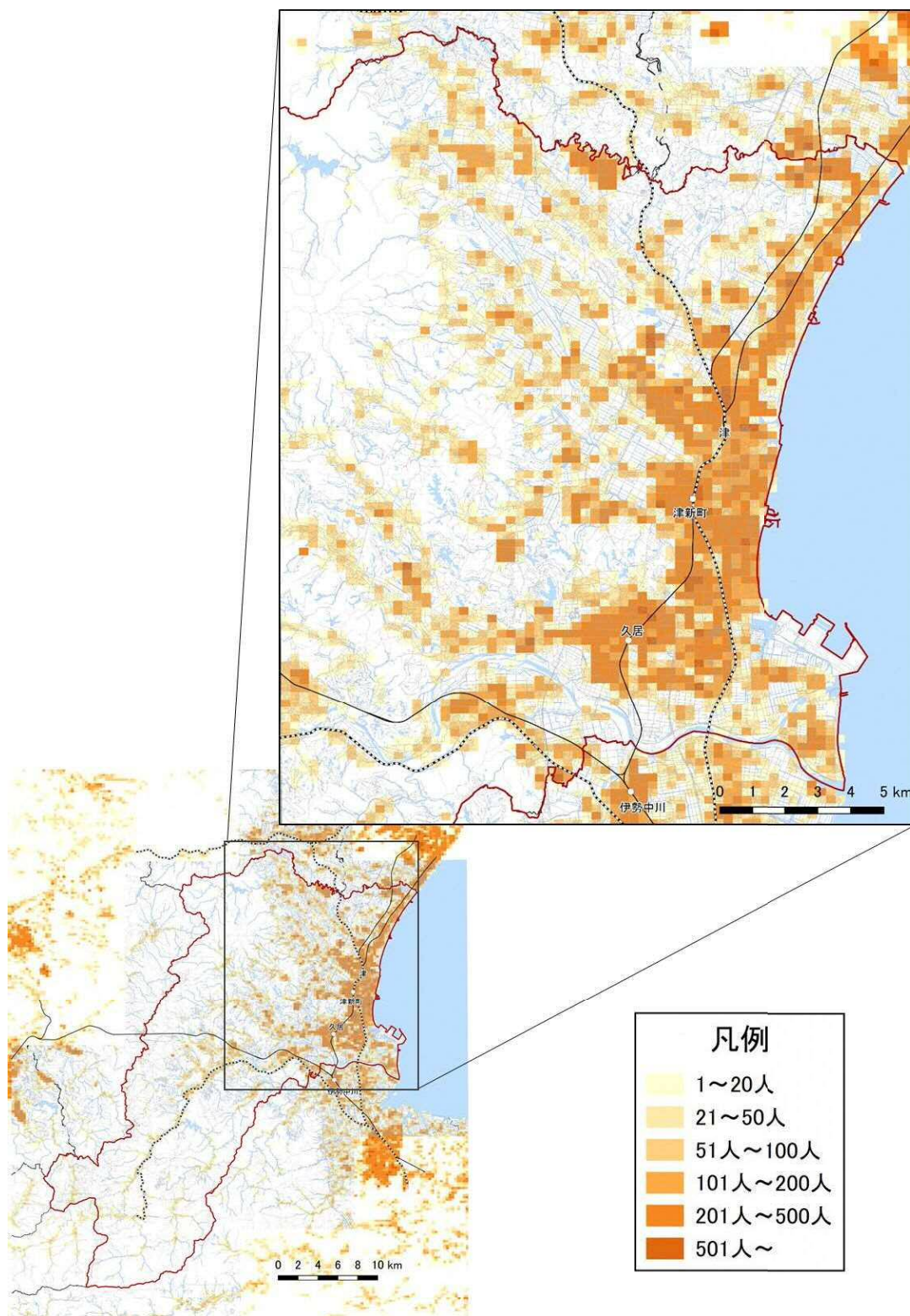


※各年度末（3月31日）の人口（外国人を含む）
（出典：住民基本台帳）

図2 地域別人口推移

(2) 人口分布

津市内の人口は、東部の伊勢湾岸沿いの市街地に集中しており、西部の平野部や山間部では低密度に分散しています。



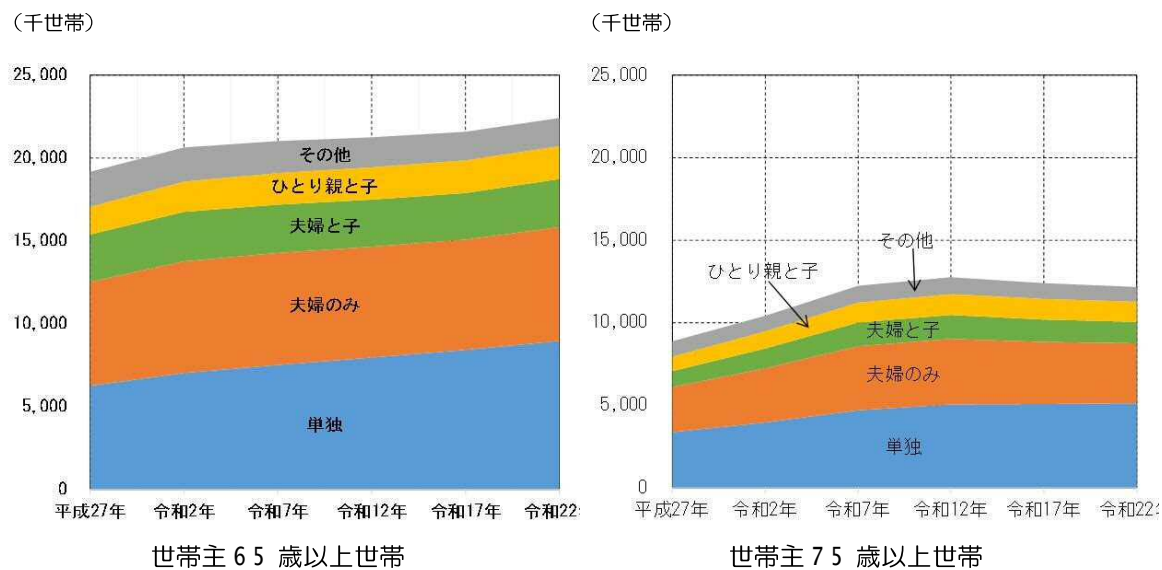
(出典：平成27年 国勢調査 250mメッシュデータ)

図3 津市内の人口分布

(3) 高齢化の状況

日本では、平成27年から令和22年にかけて、世帯主年齢が65歳以上の世帯総数は1,917万世帯から2,242万世帯へと約1.17倍に、世帯主年齢が75歳以上の世帯総数は883万世帯から1,217万世帯へと約1.37倍に増加すると推計されています。

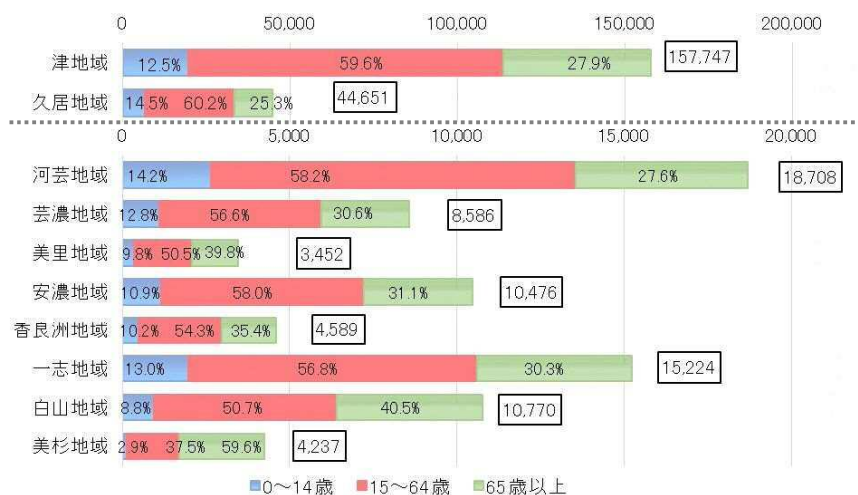
また、家族類型別では、最も増加するのは「単独世帯」で、同期間に世帯主年齢が65歳以上では1.43倍、世帯主年齢が75歳以上では1.52倍に増加すると推計されています。



(出典：国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年4月推計）」)

図4 家族類型別世帯の推移

高齢化率（65 歳以上の人口の割合）を地域別に見てみると、平成 30 年度末で最も低いのは久居地域の 25.3% です。河芸地域及び津地域も全市の 29.1% を下回っていますが、その他の地域は 30% を超えており、中でも美杉地域は 59.6% と大幅に高くなっています。



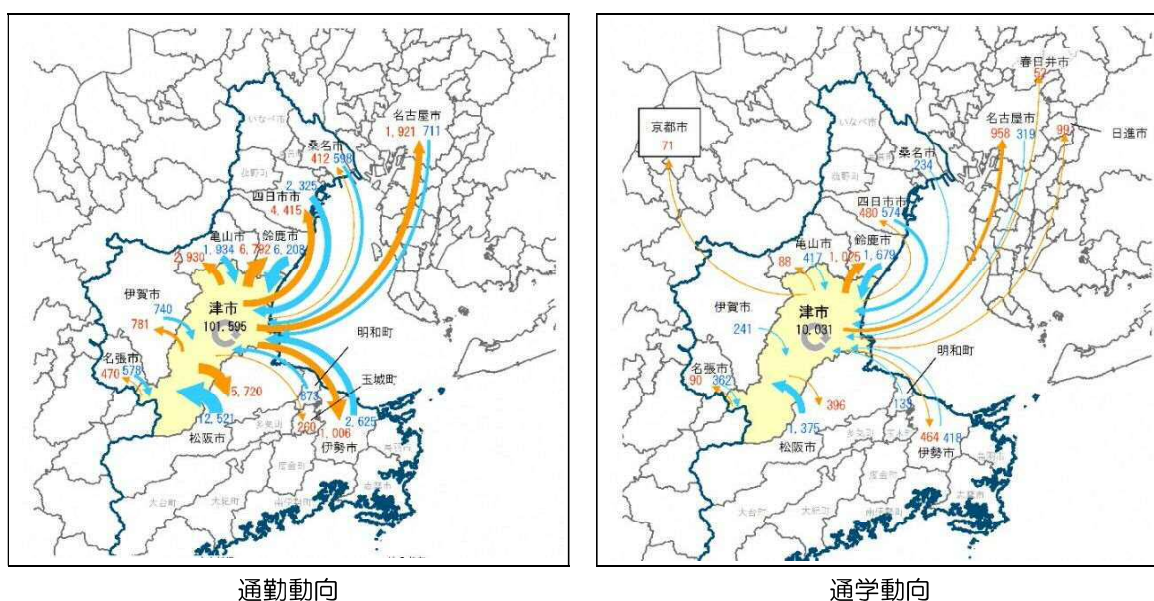
※平成 31 年 3 月 31 日の人口（外国人を含む）

（出典：住民基本台帳）

図5 各地域の年齢 3 区分別人口

(4) 通勤・通学の動向

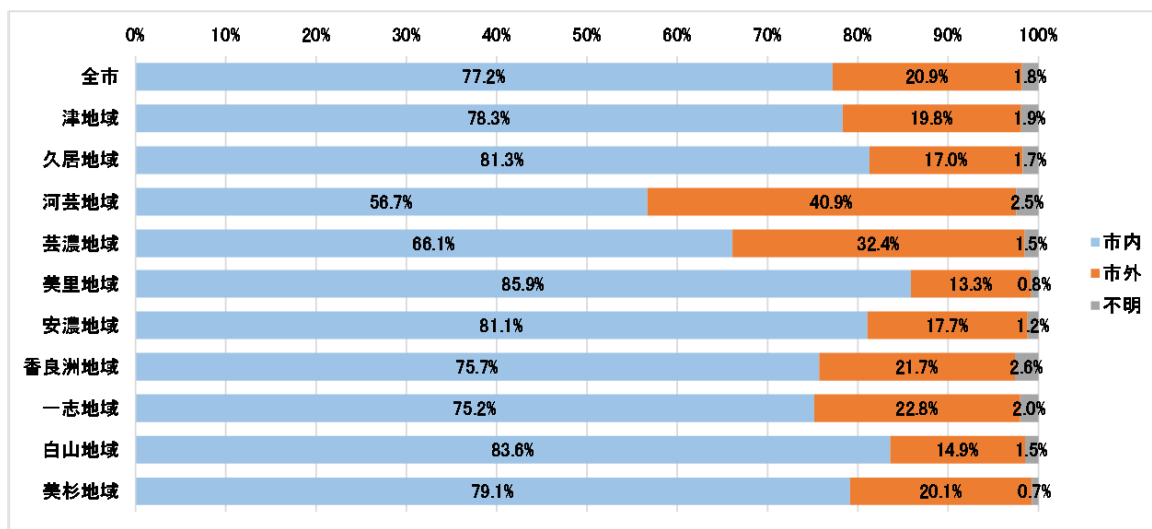
津市の通勤・通学における流動総数を見ると、津市内での動きが主となっており、通勤・通学共に 8 割近くを占めています。一方、市域を越えた流出入は、通勤では流出・流入共に鈴鹿市及び松阪市が多く、通学では流出は鈴鹿市及び名古屋市、流入は松阪市及び鈴鹿市が多くなっているなど、隣接自治体とのつながりが強くなっています。



（出典：平成 27 年国勢調査）

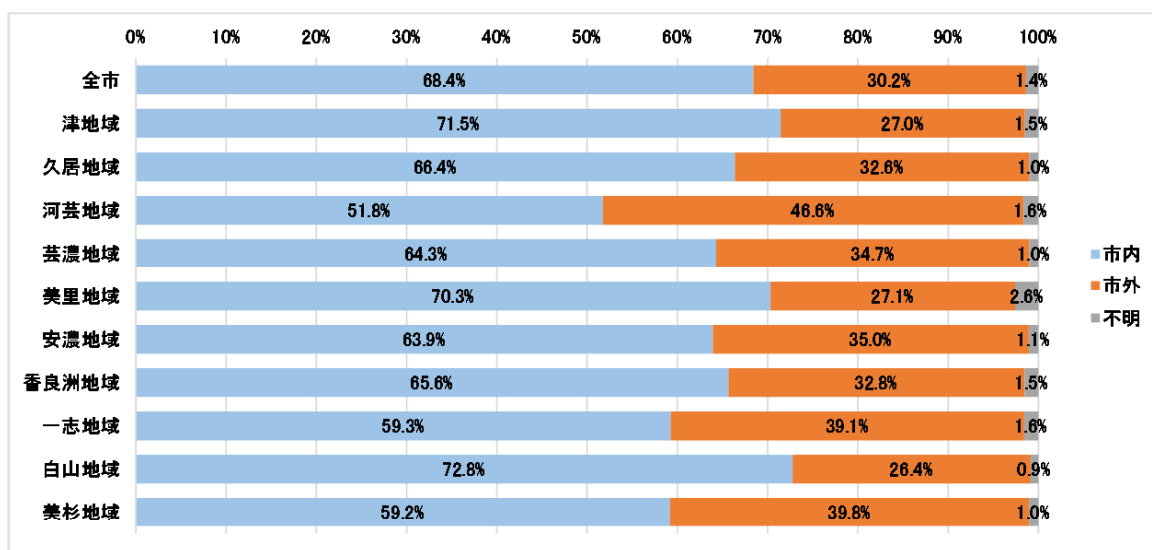
図6 通勤・通学動向

従業地・通学地の津市内外を地域別に見ると、従業地では河芸地域及び芸濃地域で市外が多く、通学地では河芸地域、一志地域及び美杉地域で市外が多くなっています。



(出典：平成27年国勢調査)

図7 地域別従業地



(出典：平成27年国勢調査)

図8 地域別通学地